

【乳汁検査まとめ】

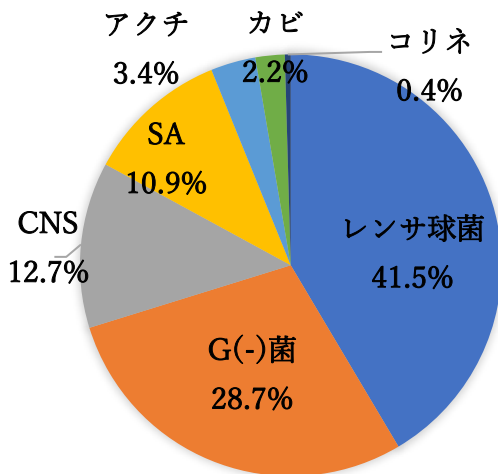
2025 年上半期（1 月～6 月）に弊社で検査した乳汁検査について報告します。

	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン Na ビクシリン	ー
Cz	セファゾリン注	セファメジン
ERFX	バイトリル 10%	ー
K	カナマイシン	タイニーPK
ST	トリオプリン	ー
T	OTC 注	OTC 軟膏

表 1 略語、薬品対応表

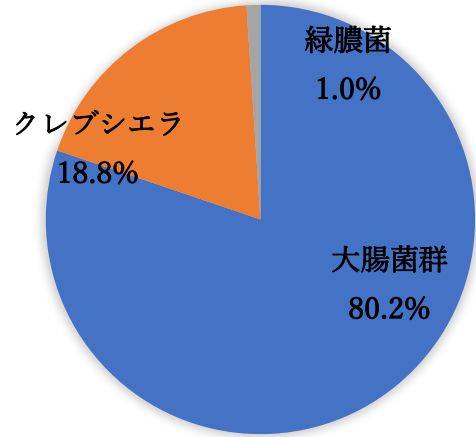
2025 年上半期で実施された乳汁検査では、延べ検査頭数 793 頭、延べ検査分房数 1065 分房でした（重複含む）。この中で菌の生えたものは 61.0%、菌の生えなかったものは 32.5%、雑菌は 6.5%でした。

菌の生えたものの内訳は、レンサ球菌（OS、ウベリス、エンテロコッカス）が最も多く 41.5%で、次いでグラム陰性菌（大腸菌、クレブシエラ、緑膿菌、その他の大腸菌群）が 28.7%で、CNS が 12.7%、SA が 10.9%でした。（グラフ 1）



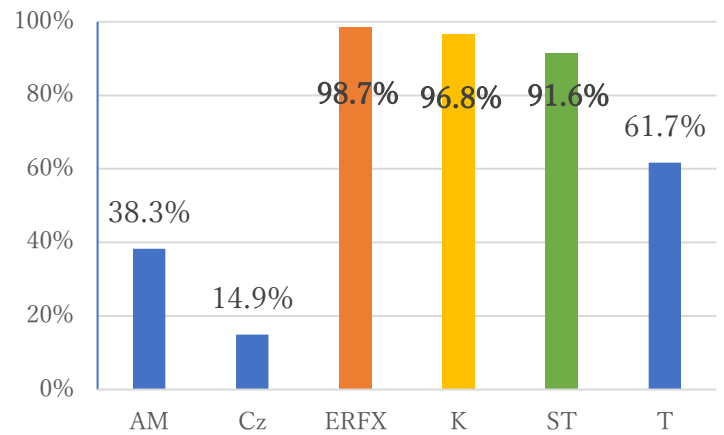
グラフ 1 乳房炎原因菌割合

グラム陰性菌を G (-) 菌、酵母様真菌をカビ、アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネと表記



グラフ 2 グラム陰性菌割合

大腸菌群（大腸菌、大腸菌群）80.2%、次いでクレブシエラが 18.8%、緑膿菌が 1.0%となりました。

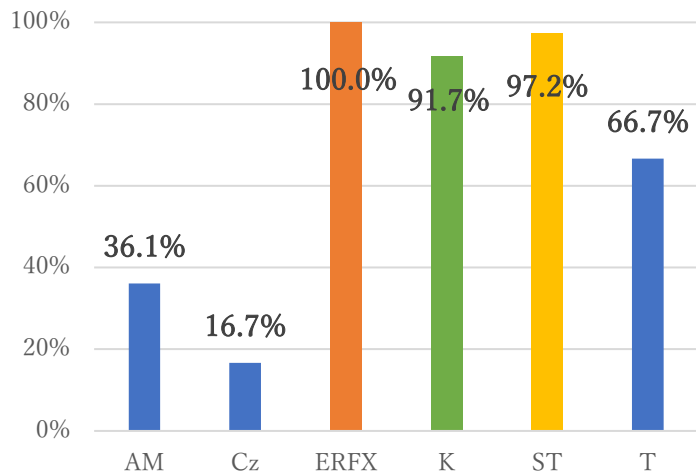


グラフ 3 大腸菌群感受性割合

ERFX（バイトリル 10%）、K（カナマイシン、タイニーPK）、ST（トリオプリン）の感受性割合が高く、ERFX、K は共に感受性割合 95%を超えています。



Total Herd Management Service



グラフ 4 クレブシエラ感受性割合

大腸菌群同様に、ERFX、K、ST の感受性割合が高い結果となりました。その他の薬剤は、大腸菌群の感受性割合と同等の結果となりました。

大腸菌群、クレブシエラ共に AM（アンピシリン Na、ピクシリン）、Cz、T（OTC 注、OTC 軟膏）は感受性割合が低い結果となりました。大腸菌群の T 感受性割合は 61.7%です。個人的には、ショック症状を含む全身症状が強く出ている場合において、この数値は心もとなく感じる数値ではあります。

緑膿菌は ERFX、GM（ゲンタマイシン）の両方又はどちらか一方のみ感受性がある場合が多く、その他の薬品の感受性はありませんでした。

全ての乳房炎を検査し、感受性薬剤で治療することが基本です。特に、治りの悪い乳房炎に対しては、乳汁検査を実施し、感受性薬品での適切な治療を行いましょう。乳房炎が増加してくる季節です。無駄のない治療を心がけましょう。

先月に引き続き、乳汁検査を行っていて雑菌の割合が多いと感じます。2025 年上半期においては、雑菌割合が 6.5%もありました。乳汁採材の際には、アル綿等で乳頭をしっかりとふき取ってからの採材をお願いします。

次回は 2025 年上半期の乳汁検査におけるグラム陽性菌（SA、CNS、レンサ球菌等）について報告します。

富田



Total Herd Management Service